

## 青梅市自治会連合会の沿革

沿革をまとめるにあたり、資料の収集が出来なかった年度もあったが、歴代連合会長の座談会、その他により概略を掲載することとした。

### 昭和35年度まで

自治会は、戦後一時期占領軍からのポツダム政令第15号により解散したが、昭和27年には、政令15号は失効し、再び自治組織が発足している。

昭和29年に設立された青梅市自治会長会において、昭和34年に「自治会制度の調査研究」についての検討委員会を発足し、群馬県渋川市、埼玉県大宮市や小田原市などを視察し、その結果を翌年の昭和35年度定期総会において発表、現在の青梅市自治会連合会を発足している。(自治会制度の調査研究の内容については、別記掲載)

### 昭和35年度から昭和59年度まで

この期間については、昭和59年度において発刊された「青梅の自治会」青梅市自治会連合会25周年記念誌より抜粋した。

### 昭和35年度

青梅市自治会連合会は、昭和35年5月に岩浪 清初代連合会長（第2支会長）の下、7地区の支会、141の自治会、10,990世帯により発足した。



青梅駅前

### 昭和36年度

10月に昭和天皇・皇后両陛下が玉堂美術館に行幸啓され、連合会長、役員等が御嶽駅前で送迎した。

11月に青梅市社会福祉協議会発足、青梅市役所新庁舎が完成した。



青梅市役所 当時の新庁舎

### 昭和37年度

市制施行以来10年を経過するも、依然として従来の表札を掲げている世帯も多いため、連合会で表札を配布。

### 昭和38年度

永山公園で美化推進市民大会が開催され、後に自治会の美化運動に結びついて行く。また、個別に国旗を掲げる運動を進めるため、国旗を斡旋した。

### 昭和39年度

青梅市が交通安全都市宣言し、自治会においても交通安全対策が強化された。

### 昭和40年度

青梅市火葬場が完成し、翌年度より全市火葬制となり、昔からの生活習慣に大きな変化をもたらすものとなった。

青梅市とドイツのポッパルト市とで姉妹都市提携を結ぶ。

### 昭和41年度

第3支会に属していた、東青梅、根ヶ布、師岡地区が第8支会として発足した。

(10自治会、1,873世帯)。また、台風26号により大きな被害を受け災害救助法が適用され、自治会などが、被災者の把握、救助に活動した。なお、防犯灯を市において維持管理することとなった。青梅市民会館完成。市制施行15周年



市制15周年落成式典（市民会館）



昭和41年頃の市役所周辺

### 昭和42年度

友田地区に刑務所設置問題がおこり連合会としてこの問題を取りあげた。

### 昭和43年度

ダストボックスによるゴミ収集が開始され、自治会もその設置に積極的に協力した。また、交通共済制度が発足し、加入促進、取りまとめに自治会が協力する。

### 昭和44年度

青梅市自治会振興交付金、集会施設設置費補助金制度が制度化され、自治会の運営面の助成と活動となる拠点の整備が始まった。

### 昭和45年度

各自治会で毎月美化デーを設け、「住み良い環境づくり」に積極的な活動を実施した。1月、役員において市長、議長を囲む新春座談会を開催し、意見交換を行った。

### 昭和46年度

東京都下市町村の申し合わせによるノーカー運動の推進について、街頭において市民へ自発的協力を呼びかけるとともに周知徹底について協力した。

河辺小学校開校。市制20周年事業市民運動会へ参加協力した。



永山運動会

## 昭和47年度

大門市民館・体育館・図書館が完成し、大門地域における自治会等の活動拠点となる。また、今まで青梅市において開催されていた市民運動会が、市の助成金をもとに各支会が主催する地区市民運動会として、自治会長、体育指導委員および体育指導協力者等の協力により開催された。



第5回産業観光まつり

## 昭和48年度

第3支会に所属していた新町・末広地区が第9支会として発足した。

青梅市立第四中学校と第五中学校が統合し市立西中学校が誕生した。新町小学校開校。

## 昭和49年度

青梅市広報を自治会で配布することとなり、積極的に行政へ協力した。霞台中学校開校。

## 昭和50年度

生活改善簡素化少委員会を発足し、冠婚葬祭などの簡素化を検討した。霞台小学校開校。

## 昭和51年度

生活簡素化少委員会において、市内、近隣市の葬儀、香典等の実態を調査した。

青梅市市民憲章、市の花（うめ）、市の木（すぎ）が制定された。青梅市制25周年

## 昭和52年度

生活簡素化委員会において、各地区婦人会長に呼びかけ「生活簡素化推進協議会」を設置した、具体的な方針として香典2千円、お返し無し、花輪を廃止し献花料とし、翌年度より実施とした。

青梅市市民センター条例制定。長淵市民センター開設、友田小学校開校。

## 昭和53年度

生活簡素化の問題は、各地域に残る風習や格式等があり同一歩調で規制することは困難なところもあり長期にわたる啓発に留めることとし市の広報に掲載し周知した。

若草、今井小学校開校。

## 昭和54年度

青梅市でゴミ減量対策として「資源再利用実施団体奨励報償金」制度が制定され、各自治会において「資源回収」を実施し行政に協力した。

また、生活簡素化の一環として正月の門松ステッカーを作成し全世帯に配付した。小曾木市民センター完成。

## 昭和55年度

本年度も門松カードを作成し全世帯で活用され、簡素化の啓蒙普及に成果を収めた。

成木市民センター開設、吹上中学校開校。

### 昭和56年度

第2支会の区域であった河辺地区が、多摩川で分断されているなどの地理的条件や人口増加にともない、第10支会として発足した。また、各支会で自主防災組織が設立され始めた。

東青梅市民センター開設。青梅市制30周年



市制30周年シンボル

### 昭和57年度

生活簡素化問題については、門松ステッカーは、連合会ですが、他の課題については、各支会で対応することとなった。また、自主防災組織の円滑な運営に資するため静岡県裾野市を視察した。

### 昭和58年度

地域の方々の除雪のお陰で青梅マラソン大会無事開催できたことに対して主催者から感謝状が贈られた。また、みどりの羽募金運動等により、首都緑化推進委員会から感謝状が贈られた。

藤橋小学校、泉中学校開校。

### 昭和59年度

多摩川冷水改善に関する署名運動を実施した。また、青梅市自治会連合会25周年記念事業の準備を進めた。

吹上小学校開校。

### 昭和60年度

多摩川冷水改善について関係機関の改善方を要請した。なお、近隣流域市町の自治会連合会および西多摩地域広域行政圏協議会における市町でも要望書を提出した。青梅市自治会連合会25周年記念式典を執行、記念誌を発刊した。

河辺、新町両市民センター開設。

### 昭和61年度

多摩川冷水問題は、最終的に平成元年に東京都から改善の申入れがあり一応の決着をみた。

青梅市制35周年

### 昭和62年度

青梅市より広報配布を新聞折込にしたいとの依頼があったが継続審議とした。都立青梅図書館が青梅市図書館として開設された。

### 昭和63年度

成木川において「ホタルを見る夕べ」が開催され、連合会、第7支会が協力し開催された。以後青梅市の夏の風物詩に定着した。

### 平成元年（昭和64年度）

青梅市広報を新聞折込みにしたいと青梅市より話があり、検討委員会を設置した。また生活簡素化における門松シール

を廃止した年でもある。

## 平成2年度

自治会加入促進対策として、青梅市より加入促進パンフレット2万部作成分の交付金があり加入促進に努めた。

## 平成3年度

軍畑大橋が完成し、警視庁の音楽隊の参加により開通式が行われた。

青梅市制40周年

## 平成4年度

第3支会の地域にあった藤橋、今井地区が第11支会として分離、発足し、現在の11の支会が形成された。西多摩地区自治会・町内会連合会長会が発足し参加協力した。

青梅市役所、小中学校が週5日制となった。

## 平成5年度

青梅市広報の新聞折込みについては、平成元年から続いている検討委員会において、他の配布物は自治会で行うとの条件により実施された。また、多摩地区が都に移管されて100年を迎えた。

## 平成6年度

多摩川清掃大会の名称を多摩川1万人美化活動と改め第1回がスタートした。地域高齢者の利便を図るため沢井保健福祉センターがオープンした。新満地トンネル開通。皇太子様ご夫妻が、高水三山登山される。

## 平成7年度

地区防災訓練については、阪神淡路大震災の経験を踏まえ実施した。また、青梅マラソンが第30回の記念大会に当り、市民マラソンの発展に寄与した理由により主催者より感謝状を拝受したが、大会は降雪のため史上初の中止となった。

小曾木保健福祉センターが開設された。圏央道青梅～鶴ヶ島間が開通。

## 平成8年度

第八、第九、第十小学校が統合され成木小学校が新たに開校された。

## 平成9年度

新町地区区画整理事業完成により青梅市において新町地区の町名地番変更を実施した。市制施行45周年

## 平成10年度

青梅市のゴミの収集方法がダストボックス方式から個別収集の有料化となるにあたり、その説明会に関して、各地区で啓発に協力した。また、本年度、翌11年度において環境美化委員連合会と「今後の美化運動における自治会と環境美化指導員等のかかわりと役割について」をテーマに意見交換を実施した。

## 平成11年度

西東京バスの路線減便、廃止にともない、関係支会を中心に交通機関の確保につき、西東京バス株式会社、青梅市、青梅市議会へ要望書を提出した。

## 平成12年度

第11支会の事務局となる今井市民センターが開設された。これにより11の

支会すべての事務局がそれぞれの市民センターで行われる事となった。

### 平成13年度

本年度より「市民と市長の懇談会」が、各地域で開催され、支会がそれぞれ協力した。

市制施行50周年

### 平成14年度

圏央道の青梅～日の出間が開通した。また以前より参画していた西多摩地区自治会・町内会連合会会長において、近隣市町村の自治会連合組織と連携を深めた。

東小、東中学校開校

### 平成15年度

永山公園での産業観光まつりにおいて、自治会のPRコーナーを設けて、加入促進活動等を実施した。



自治会連合会加入勧誘活動（永山公園）

### 平成16年度

自治会に対する市民の認知度の向上、事業のPRを期して、全自治会長に帽子を配付した。

### 平成17年度

青梅市自治会連合会正副会長の選出は支会長からとしていたが、各支会、自治会活動多忙のなか、連合会長職等に専任出来るよう選出方法について検討した。

### 平成18年度

定期総会において、正副会長については支会長または支会長経験者からとする規約改正を行った。



平成18年度定期総会（竹内市長挨拶）

### 平成19年度

市民の利便性を考慮し試行的に今井市民センターで住民票等の交付を開始した。





平成19年度連合会役員会研修視察風景(ひたちなか市)

## 平成20年度

各支会の事務局を担当している市民センターが青梅市の組織改正で、教育委員会部局から市長部局に移管となり、また、市民センター所長が再任用職員になる等市民センター改革が実施された。また、住民票等の交付を全市民センターで実施した。

連合会も後援する第1回青梅ふれあいまつりが開催された。青梅市災害補償制度が開始され、各自治会での保険加入負担分が削減された。

自治会掲示板の補修等を青梅市の予算により実施した。



第1回青梅ふれあいまつり

## 平成21年度

加入促進事業として、青梅市自治会連合会のホームページを東京都の地域支援制度「地域の底力」の補助金を利用して開設し(<http://www.ome-rengou.jp/>)支会や自治会の活動を広く周知した。また不動産協会西多摩支部および東京都宅地建物取引業協会多摩支部と加入促進の協定を結び店舗などで加入の勧めやチラシの配付をお願いした。

平成22年度に青梅市が実施予定の災害時要援護者支援制度の説明会について各支会で協力した。



平成21年度連合会役員研修視察風景(茂原市)